

はやし りこ 議員
◆早崎百合子

全国の熊被害 町の安全対策は

町長 行政と地域で連携強化図る



全国各地で熊の出没が相次いでいる。当町でも区長を中心とした熊対策に関する連携会議の開催を予定している。

問 熊被害を未然に防ぐ「予防」の強化は。

答 関係機関と協力しながら、初動対応ルールの明確化や連携強化を図っていく。

答 地元の協議会と連携し、継続的な施設の管理点検を実施し、予防対策の強化に努める。

問 出没時の迅速な「情報発信」は。

答 町ホームページや県作成のチラシやポスターなどを活用し、熊出没時の対応について注意喚起していく。

答 防災無線・安心メール・公式ラインなど、あらゆる媒体を用いて発信していく。

問 緊急時の「対応力」向上は。



ヘルプマーク普及と支援体制は

町長 制度の周知を図っていく

障がいや疾病、妊娠初期の方など外見からは分かりにくいのが、援助や配慮を必要としている方が周囲に知らせるためのヘルプマークである。

問 ヘルプマークの周知状況は。

答 「障がい者福祉の手引き」等で周知が図られており、健康福祉課の窓口においてチラシを掲示、配布するなどして周知を図っている。

問 災害時支援との連携は。

答 「養老町避難行動要支援者名簿作成等取扱要綱」に基づき、該当者の方に「避難行動要支援者名簿」への登録及び「個別避難計画」の作成を依頼。ヘルプマーク所持者で第三者の支援が必要であれば登録が可能な場合もあるので、ご相談いただきたい。

問 配布状況と相談体制は。

答 令和6年度76個、令和7年度86個、令和8年度は5月末までに18個を配布。

健康福祉課に基幹相談支援センターを設置している他、4ヶ所の委託契約相談支援事業所や知的障害者相談員、身体障害者相談員等様々な相談にも対応可能な体制となっている。



ヘルプマーク

みらいシートの普及は

町長 制度の周知を進めていく

まつなが たみお 議員
◆松永

町では、知的・精神の障害者手帳の交付が年々増加している。親が支援できなくなったり、親亡き後の生活が不安である。

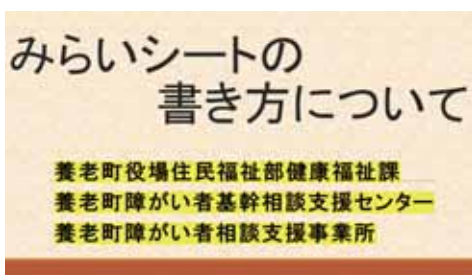
問 現在の知的・精神の障がい者手帳の交付状況は。

答 令和7年度末で、療育手帳286人、精神障害者保健福祉手帳351人。年々増加傾向になっている。

問 福祉作業所、グループホームを退所しなければならぬ状況になった場合の対策は。

答 健康福祉課の基幹相談支援センターを中心に関係機関が連携して、地域全体で支える体制の構築を進めている。

問 ひきこもりの方に対してみらいシートは有効と考えるが。



れんげの会研修会時の資料より

答 令和4年度より中央公民館において相談を開催している。将来不安のあるひきこもりの方についても、みらいシートの作成が有効と思われるので周知を進めていく。

問 民生委員の研修でのみらいシートの考えは。

答 民生児童委員協議会において説明し、協力を依頼している。

五三川の護岸工事は

町長 国・県に強く要望していく

問 5年程前、大場橋から瑞穂橋までの護岸工事が実施されたが、半分程で工事が停止している。今後の計画は。

答 毎年、県大垣土木事務所へ護岸工事の要望をしている。護岸工事は継続するとの回答があったが、予算の状況により、実施時期の明示はない。

問 2年前瑞穂大代地内で災害復旧による護岸工事が終了したが、事業の継続の計画は。

答 令和5年の護岸工事完了により、現時点で工事を継続する予定はない。



瑞穂大代地内災害復旧工事

五三川は昭和29年の町村合併で養老町に一本化され、県の一級河川となった。現在では全国でも有名なバス釣りの漁場となっている。

問 五三川の堤防、法面の保守・管理体制はどのようなになっているか。

答 右岸堤は町道認定されており、道路は町、法面護岸は県大垣土木事務所が管理している。左岸堤は、道路・法面護岸共に県大垣土木事務所が管理している。異常が発見された場合は速やかに町と県が連携し、適切に対応していく。